第 2016-46 号

恵みと真理のニュース

2016 年 11 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は旦那の重い病気を治療してくださいました
人間の弱さと神様の限りない権能を深く悟って神様に感謝と賛美を捧げます

私は神様を信じない家庭で生まれイエス様を知らなかったですが、結婚してからイエス
様を自分の救い主として受け入れました。1988年軍人の旦那をついてカンウォンドのソクチョで新婚生活をするようになりました。恵みと真理教会に通う姑を通して教会に通い始めました。教会に通ってからまもなくとても寒い冬のある日、運転免許試験を受け時に困った状況で神様が助けてくださり試験に合格するようになりました。神霊な体験をして神様が生きておられるのを確信するようになりました。時間が経って二人の子供を産みました。アンヤンで引っ越ししてから姑が通う恵みと真理教会に行き始めてまた、ヨンインに引っ越してヨンイン聖殿で通いました。区域長の祈り会に参席しながら神様の恵みで充満になって伝道するようになりました。
そうするうちに2014年の冬、旦那が酷く風邪にひいてなかなか治療を受けなくて続けて病院に通う時でした。急に朝酷い痛みを感じて救急室に運ばれて様々な検査を受けて結果、癌の診断を受けました。続けて精密検査を受けてから旦那の体重が10kgが増えるほど痩せて黄疸症状が出来ました。初めは胆嚢癌として最終的に珍しい"ホウダイブ癌4期" 判定を受けました。癌細胞がもう肝臓まで転移され手術が難しくて長くても11が月が残っていると言われました。あまりにも呆れる現実で涙が止まらなかったです。そんな状況で当会長牧師がヨンイン聖殿に来られ祝福聖会を導いてくださり、旦那と私に按手祈りをしてくださいました。私の夫婦は絶望しなくて治療の希望の中でラパの神様を仰ぎました。以後、旦那は抗がん剤を受けました。我慢できない苦痛が酷い抗がん治療を受ける中で内視鏡の施術を3回もしました。" イエスは、「この種のものは、祈りによらなければ決して追い出すことはできないのだ」と言われた。" 「マルコによる福音書9：29」イエス様の御言葉を考えて祈りながら耐え忍びました。教会で多くの方が祈ってくださり、もっと力になって勝つことが出来ました。治療を受けるときに病院でメルス感染患者が発生することがありましたが神様が助けてくださり感染しませんでした。大教区長と教区長、教区、聖徒が続けて祈ってくださいました。長老と男性執事も私の家庭で続けて男性礼拝を捧げて切に神様に祈りました。私が落胆することに主がイザヤ41章10節の御言葉で新しい力を与えてくださいました。"
恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。" （イザヤ41章10節）
旦那は抗がん6次治療を12回受けてから精密検査を受けました。。そして驚くなことが起きました。医師から肝臓に転移された癌細胞がすべてなくなったと言われました。ほかの医師もこんなことは初めてでとてもうれしかったです。神様に栄光を捧げます。
享年9月13日礼拝で牧師が12年間血が止まらない病気を患った女がイエス様に癒された話をしてくださいました。その話を神様は旦那と私にくださる御言葉と思ってつぎの日に手術を受けるため入院しました。どころが、手術に入る前に手術の同意書を作成する過程でもしかして起こる否定的な話を聞いて不安になって手術を受けないとしました。しかし、多くの生徒が一つの心になって祈ってくださるのを知ってから旦那は平安な心で手術を受けました。9月16日の朝早く手術が始まりました。12時間くらいかけると様相したのと違てより早く良く手術が出来たと聞いて手術室から出ました。私は神様に涙で感謝祈りをしました。
今年の初めに回復する旦那に将棋狭窄になって危ない危機がありました。将棋を広げる施術を受けて言葉で表現できない苦痛がありました。そうする中で私たちは絶望しなくて相変わらず信仰で神様に祈りました。祈りを聴く神様は憐れんでくださり、治療の恵みを受けました。旦那はもうこれ以上抗がん治療を受けなくても良いほど回復されて体重も正常に戻りました。病院ではこれからよく体を管理しながら5年間見てみましょうとしました。ハレルヤ！旦那と私の家族に大きい事と慰めと治療の恵みを与えて下った神様に感謝と賛美を捧げます。旦那の命を長くしてくださる神様の栄光のため主の事に力を尽くして旦那と共にいつどこでもきれいで忠誠する姿で生きて行きます。

［信仰コラム］

魂に害な所有と有益な所有

"...それから人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである」。"
（ルカによる福音書 12:13～15）

集まった群れにイエス様が " あなた達は用心してあらゆる貪欲を退けなさい。人の命がその所有の豊かさにあるのではない。 " と言われ、命と財物の関係を比喩で敷衍（ふえん）説明なさいました。ある金持ちがいましたがその年の農事がうまくいって田畑の産出が豊かになったので彼は穀物を貯蔵する方法と宴会に思いをこらしました。イエス様がこの金持ちについて言い添え " 神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。 " と言われました。
" 人の命がその所有の豊かさにあるのではない " というお言葉には所有することが多いととこしえの命を得るに支障になりかねないという意味を含めています。ある金持ちの青年がイエス様に来て " 私が何事をしたらとこしえの命を得るでしょうか？ " と質問した事件の記録には所有が多いととこしえの命を得るに支障に成り得るという事実が良く表れています。金持ちの青年はとこしえの命を得ることを人生の重大課題だと知っており、これを渇望しましたがいざ自分の財物を全て諦めなければならないと思うととこしえの命より財物の方を選びました。聖書は " 彼が大金持ちなので " と説明しました。ここで私達が知るべきのことは実際にこのような所有を全て捨てなければならないということではありません。とこしえの命が何よりも重要であることを知ってとこしえの命とこのようなことを両者択一しなければならない場合であったら躊躇わずにとこしえの命を選ぶことができる者になるべきだということです。
イエス様は金持ちの青年と自分の対話を聞いている弟子達に " 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい " と言われました。弟子達が驚きながら " では、だれが救われることができるのでしょうか " と尋ねるとイエス様は " 人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない " と答えになりました。ここに福音が啓示されています。救いは神様だけ行うことができることです。らくだが針の穴を通る奇異なことを神様はなさいます。救いを得るにその所有の大きさは何の関係がありません。神様の選びを受けた人は偶像崇拝を悔い改めて生きておられる神様に帰ります。この世の地位、権勢、財物よりとこしえの命をより貴重なことだと知って福音を信じ、述べ伝えることに励みます。このようなことはらくだが針の穴通ることより驚くべきなことです。らくだが針の穴を通ることより奇異なことを他の所で探す必要がありません。私達がイエスキリストを信じて愛するようになったことが誠に驚くべきで奇異なことであります。
" 人の命がその所有の豊かさにあるのではない " というお言葉は所有の分量より所有したことを何のために使うのかの重要性を話してくれます。とこしえの命を得た人は自分が期待したことより早くこの世から離れるとしても名残惜しく思う必要がありません。肉親の生命が終わると直ちに天国に入るからです。ただ、この世に留まる間所有するようになったことを良く使うべきです。神様の光栄のために使うべきです。主を喜ばせるために使うべきです。キリストが尊貴になることのために使うべきです。
人の魂と永遠な生命は所有の豊かさに左右されません。イエス様を信じるか信じないのかにかかっています。人の魂に害なのかあるいは有益になるかということは所有の分量ではなく所有したことをどのように使うのかに関連します。皆さんは、イエスキリストによってとこしえの命を得た者としてこの世に留まる間所有する全てを魂に有益になるよう使ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

自分を捨て自分の十字架を負いなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様に従う人はイエス様に対して正し知識を持つのが先ずされなければなりません。 そんなにしようとすれば聖書に記録された予言者の予言とイエス様の生涯とお言葉が分からなければなりません。 そして聖書に啓示された通りのイエス様を信じて仕えなければなりません。聖書に啓示されたメシアではない他のイエス様、他の福音を信じれば異端と似以非信者になります。 今日はカリオテユダとペテロ　を比べてよく見ます。

先ずに、カリオテユダに関して詳らかによく見ます。

カリオテユダは他の弟子とともにイエス様のお言葉　をきいたし、イエス様が行う奇跡を見ました。 ただ珍しいことは彼が献金管理を引き受けたという事実です。 そしてイエス様が直接あるいは迂迴的にカリオテユダ自分に対しておっしゃるお話を彼が聞きました。
イエス様がユダヤ人に自分を示して天から下った生命のパンだとおっしゃって、イエス様を信じて迎接すれば神秘的な連合をするようになるのをイエス様の肉を食べて血を飲む者は永遠に生きるようになると表現しました。 この教えを肉的に理解しようと思った多くの弟子ががっかりしてイエス様を離れ去ってしまいました。
あの時イエス様が１２弟子に “あなたがたも行こうとするのか?” と質問しました。 ペテロが代弁人のように答えるのを “神様、永生のお言葉があるのに私たちが誰に行きますか?” としました。 するとイエス様がおっしゃるのを “イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それだのに、あなたがたのうちのひとりは悪魔である” としました。 当時の状況に対する使徒ヨハネの記録を見れば “このお言葉　はカリオテ　シモンの息子を示すのだ　彼は十二の中の一りでイエス様を売る者だ。” と説明しました。
イエス様が公生涯を終える頃の 過越の祭の六日の前にベダニへ住むナザロの家を訪問しました。 この時あった事がマタイによる福音書とマルコによる福音書そしてヨハネによる福音書に記録されています。 ナザロはイエス様のために宴を施しました。 マルダはイエス様が弟子におっしゃっていらっしゃる時マリアがナード香油が入った瓶を持って来て破って香油をイエス様の足に注いで自分の髪の毛で足をぬぐいました。 この時カリオテユダにマリアに向けて憤慨しながら “なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。 イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。 貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。” と説明されています
過越の祭の一日前日の夕方にイエス様が１２弟子とともにエルサレムのある家の屋根裏部屋に集まって夕食をしました。 この時イエス様がおっしゃるのを “その心が騒ぎ、おごそかに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている 。” と告げました。 弟子はイエス様のお言葉　をきいて戸惑いながらお互いに疑いました。 ヨハネ福音 13 章 23 節から 29 節まで記録されたお言葉を見れば “弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。 そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。
その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。席を共にしていた者のうち、なぜユダにこう言われたのか、わかっていた者はひとりもなかった。 ある人々は、ユダが金入れをあずかっていたので、イエスが彼に、「祭のために必要なものを買え」と言われたか、あるいは、貧しい者に何か施させようとされたのだと思っていた。” としました。 カリオテユダは自分の考えを突き通して見ていらっしゃるイエス様を恐れて自分の計画を投げ捨てなければならないはずなのに心に決めたとおり事を進行して行きました。

次は、ペテロ　に関して詳らかによく見ます。

“イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。” とおっしゃいました。 ペテロはイエス様に対して自己中心と思って期待しました。 苦難と死という過程がないメシヤがほしかったしイエス様が権能を行ってユダヤ国を統治するように願いました。 だから自分を否認するよりむしろ神様のみ旨を力強く不正で出ました。
イエス様が弟子とともに甘藍山にいらっしゃる時に大祭司長と長老から送られ輩らがカリオテユダの引率の下に近付いてイエス様を逮捕しました。 イエス様が引かれて行くと弟子はすべて逃げだしました。 それでもペテロはイエス様が審問を受ける大祭司長の家の庭まで付いて行きました。 しかしイエス様が審問を受けている現場で自分はイエス様が分からないと三度も否認しました。 この時ににわとりが二番目泣きました。 ペテロはイエス様が彼に “にわとりが二度泣きの前にあなたが私を否認しよう。” と告げたお言葉　が思い出して外に出て甚だしく泣きわめきました。イエス様は大祭司長によってローマ総督ピラトに渡されたし結局ゴルゴタ丘の上で十字架に釘付ける事ができなくたまらなかったし葬りされました。 しかし予告したとおりイエス様は三日ぶりに復活しました。
その後ある日ペテロは他の弟子とともに夜の海に出て漁夫をしました。 夜明けに、復活したイエス様が海辺に立って “　イエスは彼らに言われた、「子たちよ、何か食べるものがあるか」。彼らは「ありません」と答えた。すると、イエスは彼らに言われた、「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」。彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかった。” 初めて弟子は海辺に立っていらっしゃった方が復活したイエス様であることが分かりました。
彼らが海辺に出て見たら炭火が立てられていてその上に魚とパンがありました。 弟子はイエス様が用意した朝飯を食べました。
そしてからイエス様がペテロ　に質問しました。“イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」。ペテロは言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」。イエスは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。またもう一度彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。彼はイエスに言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を飼いなさい」。イエスは三度目に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。よくよくあなたに言っておく。あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのばすことになろう。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」。これは、ペテロがどんな死に方で、神の栄光をあらわすかを示すために、お話しになったのである。こう話してから、「わたしに従ってきなさい」と言われた。” としました。 使徒ヨハネはこの場面で詳しい説明するのを “イエス様がこのおっしゃったことはペテロがどんな死で神様に栄光を持たせることを示しこういいなさい。” としました。
先日の起こるペテロは自分が願うメシヤに対する観念を持ってイエス様に付きました。 イエス様がまっすぐにローマの圧制をとり除いてイスラエル国の光栄と繁栄を回復させると彼は期待して信じました。 彼と一緒に自分が得るようになる富と権勢を思いながらすべてのものをすべて捨てておいてイエス様に付きました。
そしてイエス様のお言葉　と行うことをペテロ自分が思うメシヤに対する観念のフレームの中に入れて解釈して認識しました。 はなはだしくはイエス様が予告するお言葉　をきいて即時 “神様、そんなに出来ないです。絶対にこんな事が神様に起きないだろう。” と引き止めて抗議しました。 しかしこれからは自分が望む通りのメシヤではなく聖書に啓示されたしまたイエス様が親しくおっしゃったそのままのメシヤに対する認識、イエス様に対する認識を持つようになりました。 また神様の意思になるのが最上で最善であることを体得したから素直に神様のお言葉　を収容するようになりました。
後日彼は実際に逮捕して願わない所に引かれて行って殉教することで神様に栄光を持たせました。
ペテロ　とは別にカリオテユダは貪慾の心と自分の思想から出た信念を最後まで固守しました。カリオテユダはイエス様のお言葉と御旨を逆う自分の考えと主張が釘を打ってしまうのを拒否しました。 イエス様はカリオテユダに聞き分けるように何回おっしゃったが彼は遂にイエス様を大祭司長に渡す事をしました。 それからは首をつりました。 結局は滅亡の道に行ってしまいました。

聖徒の皆さんは “だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。” となさったイエス様のお言葉が持ったまことらしくて深い御旨を心深く刻んでこのお言葉のどおり生きて行くように願いします。